

# こみこみ

日立市のコミュニティ情報紙

発行：日立市コミュニティ推進協議会  
編集：コミュニティ情報紙編集委員会  
〒317-8601 日立市助川町 1-1-1  
日立市役所市民活動課内 Tel 22-3111  
Fax 21-7000

## No. 5

2001.1.1



### 目次

単会リレー訪問	
会瀬学区市民運動推進会	.....2
金沢小学区住みよい町をつくる会	.....3
ザ・特集	.....4
知っていてもいいかな? NPO	
「私のリーダー論」	.....6
特定非営利活動法人グラウンドワーク三島	
事務局長 渡辺 豊博さん	
グループ情報	.....7
ハーモニーフレンズ	
わがまちのガンバリ屋さん	.....8
日立のよいところ	.....8

第50回久慈地区市民体育祭「年齢別町内対抗リレー」

コミュニティづくりは、人と人のふれあいを深めるところから始まります。各学区では、コミュニティ

の会や体育振興会、婦人会、子ども会などが協力しながら、各種のイベントが行われています。

# 伝統と新しさの調和を

## 会瀬学区市民運動推進会



会長 柴田 和彦  
・問い合わせ 日立市役所市民活動課  
TEL.22-3111  
・世帯数 2,659  
・人口 6,253  
(平成12年6月1日現在)

### 会の構成

会瀬学区は漁業と、学区内に広く分布する日立製作所とが共存する地域です。

会瀬学区市民運動推進会は市報管理部、青少年育成部、環境美化部、レク・文化部、地域防災部、福祉部、広報部の7部と交通安全対策室で構成されています。

### 推進会が学校・各種団体の核

市民運動推進会が中心となって、会瀬5地区の地区長を柱とした市民参加の活動を進めています。特に昨年度からは福祉への関心を高めてもらおうと、これまでの募金活動の担い手であった 婦人会員・民生委員との話し合いの中で、年4回の募金



生きのいいイナダだよ!!

活動を市民運動推進会が主体となって展開することになりました。

また、会瀬小学校・各種団体との

連絡会を設け、お互いに次年度の計画の照合・調整・連携を図っています。

### 地域と学校が手をつないで

今年度のテーマは、『ふれあいを深め、あいさつで築く人の和・心の和』です。これまでも7月20日の海の日地域住民や、市内各スポーツ少年団、会瀬小・助川中の子どもたちが海岸清掃をする行事を継続して行っています。

敬老の集いには、地域の各種団体とともに、会瀬幼稚園の園児、会瀬小の全校生徒が授業の一環として参加し、参加者に喜ばれています。

自主防災訓練は、幼稚園と小学校の防災訓練と地域の防災訓練の融合を図りました。小学校の火災想定避難訓練を、住民が見学し、園児・児童とともに消火活動、煙道体験、非常食の試食そして救急の見学、大人と一緒に集団下校と有意義な訓練でした。

おおせ秋まつりは、今年で11回を数えます。小・中学生の夏休み作品の展示、地域の人たちの作品展示、自分の家に眠っている昔の広報紙

『プチトマト』の展示も行いました。子どもたちと高齢者とのクローカー大会、市内のスポーツ少年団と会瀬少年団との交流試合、各種団体による模擬店の開催など、地域の人たちがどんどん自分たちのしていること

を発表し、PRし、交流の場をつくっています。

地域と子どもたちが一緒にの行事をしていくことによって、地域が子どもたちを育てていく環境づくりをしています。

### 伝統行事・地場産業と積極的な関わりを持つ

『会瀬青少年の家』『会瀬漁業協同組合』との連携も図っています。

「海の日」の海岸清掃後と「おおせ秋まつり」では地元で捕れた鮮魚の即売会を会瀬漁協、婦人会の協力で開催し好評を得ています。今後は定期的な即売会を計画し地場産業への理解と協力を求めたいと考えています。前年度からの試みとして、7月20日～8月20日まで『会瀬青少年の家』に宿泊する人たちと、地域の人たちが一緒に「朝のラジオ体操」をしています。夏の海では「会瀬海岸駐車場」の管理が推進会に任されています。1月15日の浜の焚き上げ

祭には地域の200～300人が集まり、正月飾り・仏具・御札の焚き上げに代表の子どもが点火式を行います。「鹿島神社にある7体の子どもみこしの活用と『ささら』の継承も考えていきたい」と会長は話してくれました。

### 今後の課題

地域の人々に生き生きと活躍してもらいたいと考えています。活気のある活動を継続していくには「後継者の育成」が大切であるとのことでした。

# 住民交流の場・子どもの居場所を目指して 金沢小学区住みよい町をつくる会



会長 鴨志田 勝雄  
 ・事務局 金沢コミュニティセンター  
 TEL36-3985  
 ・世帯数 3,154  
 ・人口 9,319  
 (平成12年6月1日現在)

## 会の構成

金沢学区は、日立の南部、6号国道より山側に面した、坂道の多い地域です。金沢小学区住みよい町をつくる会は、広報宣伝部、文化部、環境美化部、安全防災部、青少年育成部、体育部の6部で構成され、副会長3名が各部2部ずつを担当し、金沢コミュニティセンターを拠点に活動を行っています。

## 美化活動

金沢学区では初夏と秋の年2回、環境美化の日を設定しています。あきかん・あきびん回収、河川清掃、除草作業などを同時に行っており、毎回1,000人を超す参加者が見られます。

特に大沼川・金沢川（金沢学区）をきれいにする会と合同で行う河川清掃は大切です。普段は河川にほとんど水が流れていないのですが、雨が降ると下水道からはけきれない水が<sup>歌</sup>増水して河川に流れ込んでしまうため、水害になる危険性を持っています。そのため、いつも河川のごみを撤去してきれいにしておかなくてはならないわけです。

環境美化部ではこれまで、台原中



みんなで汗を流しました

## 特色ある行事

体育部担当の第26回金沢三世ふれあい体育祭が10月8日に行われました。今回の特徴は今まで対抗意識が強くて出場選手が限定されていた「支部対抗ふれあい総合リレー」に、風船を割ったり、ヘルメットをかぶって手づくりの担架にボールを乗せて、子どもとともに走るなど、勝負にこだわらないゲーム的要素を盛り込んだことです。たいへん好評でした。

青少年育成部では、通勤時に6号国道の抜け道として裏道を通る車両が多く危険なことから、親子交通安全教室で啓発活動を行っています。文化部で



真剣勝負

学校と連携し、暗い地下道に壁画を描いたり、金沢小学校と連携し、学校のフェンスに子どもたちの絵を飾る事業など、積極的な取り組みを行ってきました。今年度は環境美化の啓発を呼び掛ける看板を作成しました。

## いきいき金沢文庫

今年6月、金沢コミュニティセンター内に開設された「いきいき金沢文庫」は、ボランティアの人たちにより、企画から管理まで行われています。一日に十数人の利用が見られます。

学校が完全5日制になることによる子どもたちのゆとりの時間が有効に活用され、活字に触れながら、お年寄りから子どもまで、住民みんながふれあえる場所になることをねらいとしています。

は、秋の文化祭で金沢学区のみなさんの写真・書道・絵画・手芸・彫刻などの作品展示会や、囲碁・将棋大会などを行いました。また、昔から現代までの金沢学区の移り変わりを写した写真展や、広報宣伝部との連携でパソコン教室なども考えています。

目下の悩みはボランティア間の時間調整が難しいことで、現在会員拡大を呼び掛けています。

## 意識調査

金沢小学区25周年記念事業として、生活に関する意識調査アンケートを学区内全世帯を対象に行いました。回収率65%でした。現在報告書ダイジェストが完成して一目で内容がわかるようになっています。アンケートの結果を活動に生かしていきたいそうです。

## 将来の展望

会長は「こちらで活動をアピールするよりも、地域住民が金沢コミュニティセンターに集まり、活動や行事を楽しんでくれば、自然と明るい地域の輪が広がっていくでしょう」と話してくれました。

最近、市民活動をしている団体やグループが、“NPO”の資格を取ったという話題をよく耳にします。一体NPOって何者なのでしょう。“NPO法人格を取得したボランティアグループ”などと聞くと、「ああ金が足りない、人が足りない、誰も分かってくれない」と悩みながら活動している多くのボランティア団体にとっては、何か立派そうな格上の団体のように感じられ、他人事に思えてしまいます。

それでも、今年、日立市にも3つのNPO法人が誕生しました、まちづくりの活動にも大いに関係するらしいと聞けば、市民活動の情報提供がうたい文句の当紙編集局としては、捨てておく訳にはいきません。何やらむずかしそうな“NPO”の解説に挑戦してみました。

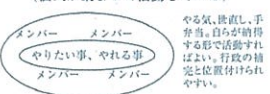
### NPOとは

そもそも“NPO”とは、非営利組織（金もうけをしない組織）を指す言葉で、営利を目的とした会社組織以外の公的組織全般をさしていました。それが、1998年に特定非営利活動促進法（NPO法）が制定されて以来、特定非営利活動法人として認められた団体を指しているのが一般的になりました。

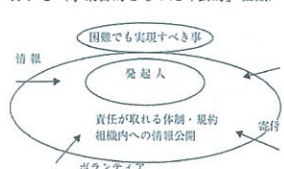
NPO法は文化、福祉、環境、教育、国際交流、まちづくりなどの12分野で活動を行う市民団体が一定の要件を満たせば、法人格の取得を認め、その団体が広く社会的、法律的に認知されることで、その活動のさらなる発展を促すことを目的として施行されました。

### ボランティアとNPOの関係

ボランティアグループ  
（個人が集まって活動している）



NPO（事業目的をもった「公的」組織）



メンバーよりも使命が上、目的が明かで誰でも入れる。幅広い支援に対し成果で応え、必要なら有益スタッフもあり、行政とは異なる形で利益を得る。

ちょっと乱暴に説明すると次のようになります。

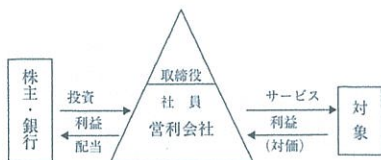
「10人以上の団体が、儲けることを目的としないで、まじめに社会のためになる活動を行うならば法律のうえでのNPO法人として認めます

よ。その団体が、必要な人の確保のための経費（スタッフの報酬）や、事業を実施するのに必要な経費のために収益を上げる活動をしてもいいです。」というのが法律の趣旨のようです。

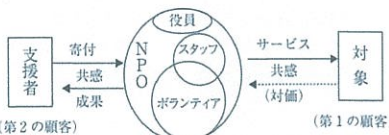
### 営利企業とNPOの違い

（非営利とは配当しないこと）

営利組織（For Profit Organization）



非営利組織（Not For Profit Organization）



- 一定の要件とは、
- ・営利を目的としないこと
  - ・特定非営利活動を主たる目的とすること
  - ・宗教や、政治上の支持などを主な目的としないこと
  - ・10人以上の団体であること
  - ・役員のうち報酬を受けるものが、役員総数の1/3以下であること

- また、法人として設立後の管理運営については
- ・特定の個人や団体の利益を目的として事業を行ってはならない
  - ・その法人の事業目的に充当するため、収益を目的とする事業を行うことができる
  - ・当該法人の事業目的、事業内容、収支内容などの情報公開の義務などの規定があります。

【資料提供：茨城NPOセンター・commons 問い合わせ TEL029-300-4321】

### 高まる信頼性

NPO法人として、法的に認定されれば、社会的信用度が大きくなります。そのことによって行政や、他団体などから事業を展開していくうえでのパートナーとして選ばれる

可能性が大きくなります。認知度、信用度が上がることによって、目的とする事業への協力者や寄付金などが集まりやすくなることなども考えられます。ただし、NPOとして認

められたからといって行政や団体から補助金などがもらえる訳ではありません。組織をしっかりとし、目的の事業を着実に実施していくことが信用の基本です。NPOとして成功していくためには、かなりの覚悟と労力が必要のようです。

### 具体例

### NPOを視野に入れた活動 ～高鈴台団地～

高鈴台団地は、市役所の西側、日立中央ICの近くで、太平洋を眼下に見る「鹿野場遺跡」跡に造成された約350区画の住宅団地です。

3年ほど前には団地自治会のみなさんで、平成3年春の森林火災の教訓から、住宅に迫る山の雑木を伐採し、防火帯をつくろうと地主さんの了解を得、市の資金援助をもらい、自治会がコーディネート役となって、幅6メートルの防火帯を完成させています。

また、家を建てていない空き地の地主さんと、きれいに管理をする代わりに駐車場や畑として無料で貸してほしいとの話がまとまり、あちこちに駐車場や畑が見られます。なかでも「畑ふれあいの会」と銘打っている9軒のグループはユニークで、野菜づくりや試食会、旅行、さらに草刈りのできない近所の空き地の管理も格安で請け負い、幅広いコミュニケーションを図っています。

このような活動は、法人格は取ってはいませんが、NPO的活動と言えるのではないでしょうか。高鈴台団地の自治会長であり、畑ふれあいの会のリーダー的存在である武士正員さんは、「これからは、行政や大きな団体・企業だけに頼るのではなく、自分たちの身近な問題や、自分たちでできることは、どんどん自分たちで手がけ、少子高齢化社会にふさわしい、地域の特性を生かした地域づくりこそ大切ではないでしょうか。このことは、地域の人材・能力を生かし、新たな雇用を生むコミュ

ニティビジネスとなり、生きがいのあるまちづくりにつながると思います。そして、契約相手となる事業者

### 法人化で広がった活動 ～NPO法人ひたち親子劇場～



豊かな感性は遊びから

ひたち親子劇場は、任意団体として1984年に発足しました。親子で劇を鑑賞するだけのグループと思われがちですが、子どもたちを感性豊かに育てることを主な目的とした全国ネットの子育て支援グループです。

今年9月にNPOの法人格を取得。これまでは月1,000円の会員会費を財源としてきましたが、少子化の影響か、会員数が減少傾向にあります。ひとつの事業を展開するためには多額の費用がかかるため、財源の見直しも余儀なくされました。

最近では、財団等の助成金を取得することも条件とされるケースが増えてきました。そこで、2年間の研究を経て、今回の法人格取得となったわけです。

最近では、財団等の助成金を取得することも条件とされるケースが増えてきました。そこで、2年間の研究を経て、今回の法人格取得となったわけです。

法人格を持つことで、事務処理等煩雑化した部分も多々ありますが、社会的立場として、任意団体であるよりも責任の所在が明確になり、信頼性も高まったのではないのでしょうか。

これからも、多くの子どもたちが心豊かに育つよう、会員のみならず、できるだけたくさんの親子に参加してもらえる事業を展開していこうとはりきっています。

# リーダーは語り上手で聞き上手

渡辺 豊博 特定非営利活動法人グラウンドワーク三島事務局長

## リーダーの能力

グラウンドワーク三島は、三島市内の18の市民団体が結集した、ネットワーク型のNPO法人だ。私の役割は、各地域に入り、解決の方法が見い出せない地域課題に対して、実践的、具体的に取り組める地域合意の形成と体制づくりである。本法人には個性的で思い込みの強い自由人が集まっている。一人一人の考え方や発想力は独創的で斬新であり、それぞれの考えが現実化すれば、地域はもっと元気になり、地域環境の抜本的な改善も具現化するだろうと思うものばかりだ。

しかし、現実の世の中は、そう簡単に物事が解決できない。行政の都合、法律の制限、資金的な制約、企業の不理解、地域住民の無関心、専門性の欠如など多くの要因が複雑に絡み合い、一人の力には限界がある。

そこで、一人一人の知恵や思い、志、力、情熱を上手に引き出し、それらを有機的に結合させ、新たなる創造的な力に転換・変換できる「総合力」「全体力」をもった人が求め

られており、その資質と能力をもった人がリーダーといえる。すなわち、物事を大局的・先見的に見渡せる戦略性、人の気持ちをプラス思考に転換できる包容力と楽観性、偏らない中立性、人間的な魅力をもつ大人性、夢人の子供性、どんな逆境にも負けない忍耐力と精神力、疲れにくい体力と気力、発想力にあふれた知力、考えたらすぐ対応する迅速性と行動力、語り上手で聞き上手の会話力、真綿で首を占める説得力、他人に秀でた専門性や達人技、利害を調整・仲介する融合力など、人間として求められるさまざまな視点や感性が必要とされる。

## 実践を通しての学習

このような能力はどのように育まれるのだろうか。私は、地域で起こっている身近な課題に真摯に立ち向かい、実践を通して、悩み、苦しみ、考え、工夫し、小さな成果を残すプロセスのなかで学習していくものだと思う。活動を通して、さまざまな個性をもった人間と出会い、衝突し、議論し、中庸を捜し、合意し、小さ



プロフィール

昭和58年静岡県庁に入庁。日本で最初の市民・企業・行政がパートナーシップをとった自然環境改善活動を行う「グラウンドワーク三島実行委員会」をはじめ、「三島ゆうすい会」・「三島ホテルの会」等の事務局長を担うなど多彩な市民活動を実践展開している。平成8年4月から10年3月まで財団法人日本グラウンドワーク協会の事務局長を務める。グラウンドワーク三島は平成11年11月にはNPO法人化され、現在もその中心メンバーとして活躍中である。

な答えを創造していく。お互いを認めあい、支えあい、思いあい、助けあう、相互扶助の問題意識の蓄積が、無意識のうちにリーダーを創っていくことになる。

## 超馬鹿、ちょっと馬鹿

困難に立ち向かう正義感と馬鹿性、自分に高いハードルと制約を課せて自分自身を追い詰めていく先達性、楽しい人の渦を創っていくネットワーク力など、さらなる活動の継続と課題への挑戦が、より強靱な精神と柔軟な思考を育成し、総論やベキ論によらない、実践に裏付けされた生活者の視点に立った新たなるリーダーの台頭につながっていく。超馬鹿なリーダーを育てていく、ちょっとした馬鹿（市民活動家）の出現が、地域を変革していく大きな力となる。市民一人一人が、アホらしくて馬鹿らしいことに、喜びや生きがいを感じて積極的に取り組んでいただくことを期待する。



地域総参加での荒地のミニ公園整備

# ダイヤモンドエイジを豊かに

～仲間と地域で奏でるハーモニー～

ハーモニーフレンズ

## グループの誕生と仲間たち

メンバーの一人鈴木さん（会長）が、定年を迎えたあとの自由な時間（ダイヤモンドエイジ）に何かをやらなければならないと思い、熟年研究会に参加しました。いろいろな人との話の中で、「そうか、幼い頃やったハーモニカでもやってみようかな」と思いつき、手軽にみんなで楽しめて、将来仲間の受け皿づくりになるようにと、隣近所の人たちに声をかけたのがグループ誕生のきっかけでした。次第に同好者が加わり、現在、市内南部地区で現役を卒業した7名のメンバーで活動しています。

始めたころは各自個々に音を楽しんでいましたが、そのうち音色を合わせた合奏に進み、今では四重奏（ベース、コード、ファースト、セカンド）を楽しむまでになりました。演奏する曲はみんなで選び、月2回の練習を行っています。演奏会では聞いてもらう対象者に合わせて選曲します。できるだけ曲に合わせて一者に歌ってもらうようにしています。

また、自称“ハモキチ”もあり、互いに競い合いながら演奏の腕をあげたいと思っています。

## 活動とレパトリー

初めはメンバーだけで好きな時にハーモニーを楽しんでいましたが、団地の文化祭に出たことがきっかけで、いろいろな所から声が掛かるようになり、ボランティアとしての演奏の場が多くなりました。今年もすでに各地の老人施設、福祉センターや地元団地の文化祭など数十回を越える演奏を行いました。また百年塾フェスタや、市民音楽祭などのイベントにも参加し、多くの方々とのふれあいを楽しんでいます。「きらきら星」「かえるの歌」から始めたの



ハモキチ?が熱演

が、今では童謡、唱歌、映画音楽など二十数曲のレパトリーになりました。現在は映画音楽の「夜霧のしのびあい」、なつメロ「白い花の咲く頃」の四重奏にも取り組んでいます。

## メンバーの思い

一人一人の個性の音が重なってハーモニーとなり、表現されることの楽しさ。活動を通じて多くの方々とのふれあいをもち、少しでも社会に貢献できたらと願っています。演奏を楽しみ、聴いてくれる人に喜んでもらうことが仲間全員の願いです。

## セールスポイント

“手づくり演奏会”をモットーに、ハーモニカは勿論、マイク、スタンド、譜面台、音響機器など、すべて自前で揃えています。イベント時は会場づくりから企画、進行もみんなで考えて演出し、ハーモニカの種類や音の紹介、音の出し方の解説もしています。

また、メンバーそれぞれが演奏だけでなくコミュニティ活動にも携わ

り、スタッフとして活躍しています。

## これからは

これからもハーモニカの演奏を楽しみ、ボランティア活動を行い、いろいろな所に出かけたくさんの人たちと、楽しさを分かち合いたいと考えています。

またメンバー同士が和気あいあいと楽しみながら、地元の人とのふれあいを深めていくこと、さらには将来の後継者づくりと、子どもたちにみんなで力を合わせて行う合奏の楽しさを経験してもらい、豊かな情操教育に役立てたいとがんばっています。

### 問い合わせ

鈴木 TEL・Fax 52-4917  
E-mail [ssige@rose.yyy.or.jp](mailto:ssige@rose.yyy.or.jp)

# わがまちのガンバリ屋さん

## 無垢の姿勢が若者変えた…奉仕活動

齋藤 正三さん（日高学区市民自治会）

齋藤さんは地域の美化を生きがいとして、15年間も空き缶やタバコの吸い殻を拾い続けています。

退職後、技術を身に付けようと専門学校に通う道すがら、空き缶やタバコの吸い殻が散乱しているのを見て、拾い始めたのがきっかけです。毎日2～3時間散歩をしながら拾い続けています。

あるとき、近所のスーパーの駐車場で若者たちがスケートボードで楽しんでいるところに遭遇。若者たちは遊びに夢中で、齋藤さんが黙って吸い殻を拾っていても、繰り返しタバコのポイ捨てをする。数日後、いつものように黙々とゴミや吸い殻を拾っていると、「おじちゃん、俺もうタバコ捨てるのやめるよ！」



と語りかけてきました。齋藤さんのひたむきな気持ちが通じたのでしょう。それからはあいさつも交わすようになりました。

また、70歳のときに大手術を受けた後、リハビリのために神峰プールに通いながら、かみね公園周辺の散

今回から新しいシリーズで、コミュニティ活動のさまざまな分野で頑張っている地域のガンバリ屋さんを紹介します。

歩を2時間ほどしています。散歩の間、頂上付近をひとまわり。

齋藤さんの行動がきっかけで施設の職員たちもゴミや空き缶の収集を手掛けるようになりました。

散歩しながらのごみ拾いがきっかけで素敵な輪が広がっています。

## ものの極まりは裏側から…盆栽

佐久間 昇さん（油縄子学区住みよいまちをつくる会）

油縄子コミセンを訪問した時、最初に目に飛び込んでくるのが盆栽。小さな物でも見事な芸術品となって、生命の息吹さえ感じさせてくれます。そのすべてが佐久間さんの育てたものです。

両親の影響を受け盆栽を始めて40年。盆栽を通して住民との会話も弾みます。

盆栽の手の掛け方は子育てに似てるという佐久間さん。欠点を見るのではなく、いい所を見て育てる。基本を守り個性を活かす。そして自ら喜び楽しさを持ってやるのが、盆景・情景となって表れます。見えない部分を大切にすること。気を抜かず裏から手を加えたものは、必ず表が良くなるといいます。コミュニティ活動も裏側を大切に心掛けているとか。人生の生き方にも通じます。

油縄子のガンバリ屋さんは今日も



盆栽と向き合い語り合っています。盆栽に水をやるその瞳には、愛おしさが溢れていました。

## 日立の よいところ

### 裸島とウミウ

断崖が続く滑川と田尻の境を流れる北川の河口付近は、ウミウが春と秋の渡りをするとき、休息する絶好の場所です。



## 編集後記

去年4月から2人の新メンバーを加えて編集委員一同さらなる飛躍をめざして頑張っております。

No.5から『わがまちの匠たち』に代えて、『わがまちのガンバリ屋さん』になりました。地域で頑張っている人を紹介してください。また、ザ・特集では、NPO法という難しいテーマについて解説を試みました。みなさんの参考になれば幸いです。

感想、ご意見、なんでも結構です。市民活動課事務局まで。